



研究トピックス

海洋環境保全のための生物多様性学

専門分野

動物系統分類学 海洋環境科学

岡西 政典 OKANISHI Masanori

教員情報 <https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymsgkodggy>

研究概要

海洋は地球の7割（面積）から9割（体積）を占める重要な環境である。近年、プラスチックによる汚染などによって多くの海洋生物に影響を与えられていることが問題となっており、その保護が喫緊の課題となりつつある。しかし海洋生物は水中におけるモニタリングの難しさから、その保護対策の選定が難しい。本研究では、環境DNA手法などの開発によって、海洋生物を対象としたモニタリング方法の策定を行う。

研究シーズの応用

企業が海洋環境を開発する際の海洋環境モニタリング法を提供することが可能。特に環境DNAモニタリング法は、最新研究に基づいた非破壊的な方法である。

キーワード

瀬戸内海 海洋環境汚染 海洋環境保全



研究トピックス

中国の政治外交研究、日中・米中関係を 中心とした東アジア国際政治、中国文 明の特質と日中文明の比較研究

専門分野

国際政治 中国政治外交 日中関係 文明論研究

王 偉彬 WANG Weibin

教員情報 <https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymkdkgbggy>

研究概要

1. 中国政治外交研究
2. 日中・米中関係を中心とした東アジアの国際政治に関する研究
3. 中国文明の特質と日中文明の比較研究

著書（単著）：「中国と日本の外交 — 一九五〇年代を中心にみた国交正常化へのプロセス—」
（ミネルヴァ書房、2004年）、

著書（共著）：中園和仁編『中国がつくる国際秩序』（ミネルヴァ書房、2013年）。

研究シーズの応用

中国進出に際しての政治・経済事情等を含む異文化問題

キーワード

中国の社会環境 企業文化 社会風習



研究トピックス

ボトムアップなまちづくり・市民参画

専門分野

都市デザイン分野

木原 一郎 KIHARA Ichiro

教員情報 <https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymdmgigbggy>

研究概要

まちづくり、建築・公共空間の使い方の検討、建築設計の際に、一般市民がスムーズに参画できるような場・ワークショップ・アクションプランの計画などを行っています。特に市民参画が形骸化せず、今後自分ごととしての行動ができるようなプロセスや場について研究しています。広島市都心部での将来ビジョンを計画・実装していく取り組みを行っている#カミハチキテル- Heart of Hiroshima -にて実践的に研究しています。

またエリアマネジメントにおける協創のあり方を研究しています。協創が必要なことはみなさん理解されていると思いますが、実現させるにはとても多くの壁があります。それを乗り越えるプロセスやアクションを実践的に研究しています。

研究シーズの応用

まちづくりへの一般市民の参画、建築設計や空間活用における地域住民の意見収集、地域の今度のまちづくりの方向性検討、これらの検討プロセスや場の設えなどにお困りでしたらお力添えできます。またエリアマネジメントの進め方もご相談ください。

キーワード

市民参画 ワークショップ エリアマネジメント



研究トピックス

地域住民参加型の新しい民主主義のかたち

専門分野

政治学 政治理論 民主主義論

小須田 翔 KOSUDA Sho

教員情報 <https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymbkgdgeggy>

研究概要

民主主義、とくに熟議民主主義を研究の対象としています。なぜ熟議民主主義がよいのか、どのような熟議の形態がありうるかといった理論的なことや、市民の方々が集まって話し合いをする中で、男性と女性との間のばらつきや集団の極化現象などが生じることの問題性についても関心があります。

主な研究手法は政治理論です。政治理論では、正義・自由・平等・民主主義といった抽象的な概念を哲学的に分析します。この分析を通して、ジェンダー不平等、差別、格差、移民排斥、環境破壊などがなぜ問題なのかについての知見を得ることができます。

研究シーズの応用

1. 主に民主主義や熟議民主主義について研究してきたことから、それに関する「ミニ・パブリックス」や「くじ引き民主主義」についての知見を共有することができます。新たな市民参加の方法として参加型予算や住民討議会、気候市民会議などの運営に参画することもできます。
2. 政治理論・政治哲学の知見を提供することができます。フェミニズム、構造的不正義、差別、経済的格差などの問題を、理論的な観点からご紹介します。

キーワード

市民参加、ミニ・パブリックス、熟議民主主義



研究トピックス

自治体の政策プロセス（of の知識）と、 個別分野における政策課題とその対策 （in の知識）

専門分野

地方自治法 地方自治論 政策法務論

澤 俊晴 SAWA Toshiharu

教員情報 <https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymdogygsggy>

研究概要

これまでは、都道府県条例と市町村条例の関係、条例による事務処理の特例と権限移譲、行政不服審査法と条例に基づく処分、手話言語条例や補助金等交付条例、浸水対策推進条例など個別の条例、自治体における政策実施過程などについて研究してきました。

研究シーズの応用

主に自治体の法務関係を中心に実務経験を積み、研究してきたことから、それらに関する審議会委員等に対応することができます。

キーワード

条例論、災害予防法制、政策実施過程論、政府間関係論、行政不服審査法関係



研究トピックス

世界の中の日本について、日本政治、日本外交、国際政治の枠組みから考察している。

専門分野

国際政治学 国際日本学

三上 貴教 MIKAMI Takanori

教員情報 <https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ykmkmgssoggy>

研究概要

最新の研究において「十年一昔アプローチ」を提唱している。10年前の施策を現在から照射することで、その成否、残された課題、今日への影響について考察する。また10年後のあるべき姿から現在の施策を検討し、その意味、有効性を議論する。首相による施政方針演説を主なテキストとしている。

加えて国際政治学理論におけるソフトパワーを考える研究、国際社会に横溢するランキングを素材とした研究も行っている。ランキングについては、これを無批判に受容するのではなく、その背後にある意図、問題意識、作成手法にも注意を向ける、言わばランキング・リテラシーの向上に結びつける必要性について主張している。

研究シーズの応用

「十年一昔アプローチ」は、本研究者が専門とする政治学に関連する分野を超えて、現在の社会状況を分析する上で、広範な領域における応用が可能である。10年前の中国やアメリカが国連で主張していたことの内、何が実を結び、何が単なる掛け声だけに終わってしまったのか。国際社会の環境の変化を変数として認識しつつ、客観的、表面的に捉えられるデータを掌握すると共に、価値観やアイデンティティなど、文化的な要素も加味して論究する。世界の中の広島を考える上でも有用な手法であると確信している。

キーワード

世界の中の日本 日本の中の世界 ソフトパワー



研究トピックス

チェコから見たヨーロッパ理解

専門分野

国際政治史 中欧地域研究 チェコ研究

矢田部 順二 YATABE Junji

教員情報 <https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymiygioiggy>

研究概要

これまで国際政治史研究の立場から、チェコ現代史、チェコスロヴァキア対外関係を研究してきました。チェコ共和国と周辺諸国の相互関係の歴史分析が専門領域です。チェコ教育省の政府給費留学生として2年半、さらに在チェコ日本大使館の専門調査員として2年、現地に滞在した経験から現地語であるチェコ語を使った研究をしています。地域を理解するには総合的アプローチが必要との考えから、政治研究のみならず文化理解の造詣も深めるように努めています。

研究シーズの応用

かつては「鉄のカーテン」の向こう側だったチェコスロヴァキア。現在はチェコ共和国となり、EU加盟国です。日本ではまだあまりよく知られていない国かも知れませんが、原爆ドームの設計者がチェコ人建築家のヤン・レルツであったことなど、広島ともつながりのある国です。地域研究の立場から情勢説明や、地域理解の支援、あるいはチェコ語学習の教授などができます。また、中欧地域の政治文化についても解説することができるでしょう。

キーワード

ヨーロッパ理解 地域研究 チェコ語



研究トピックス

地方自治体の行政管理、組織運営

専門分野

行政学 地方自治論 公共政策論

山中 雄次 YAMANAKA Yuji

教員情報 <https://shu-lab.shudo-u.ac.jp/shuhp/KgApp?kyoinId=ymdigmggygy>

研究概要

地方自治体における行政改革、人事や組織運営を主な研究テーマとしています。とりわけ、2000年初頭に地方自治体間で大流行したNPMの「その後の姿」について考察しています。これまでに、行政経営計画、政策評価、指定管理者制度、市民協働に関する研究成果があります。

研究シーズの応用

地方自治体での長年の実務経験とそれをベースとした研究を踏まえ、地方自治体が開催する各種委員会・審議会に参画し、議論に加わることが可能です。

また、担当するゼミナールの時間、自治体職員の皆様にご出席いただき、大学生と意見交換することも大歓迎です。若者の声を聴いてみませんか？

キーワード

地方自治、行政経営